

まちの歴史を知る

小学生ふるさと教室



杉本さん（右）に説明を受ける児童ら

歓声あげて、もちつき

根雨小もちつき大会



力を合わせて、つきあげる児童

小学生が町を回り、ふるさとの歴史と文化を学ぶ『ふるさと教室』が、1月12日に開かれ、町内の小学6年生22人が参加しました。

まず根雨のたたら製鉄では、たたら製鉄について分かりやすく作られたアニメを見て学びました。アニメは親しみやすいようで、笑顔が見られました。

また、杉本準一さん（根雨）が根雨まちなかを散策しながら、文化財や町並みについて説明。子どもたちは普段、何げなく生活している中に文化財があることに驚いた様子でした。

この日は、たたらなどのほか、生田長江や鏡山城址、因幡二十士について学びました。

児童が育てたもち米の収穫を祝うもちつき大会が、1月22日、根雨小学校体育館で開かれました。

5年生の総合学習で栽培を記録した成果発表があり、大きな拍手が送られました。その後、全校生徒と地域の人、保護者が参加しもちつき大会を楽しみました。

1年生は初めてのもちつき大会。保護者がもちをつく姿に「それー、それー」と目を輝かせながら歓声をあげていました。

もち米は「ヒメノモチ」という品種。児童と地域の人で刈取りを行いました。つきあがったもちは、ぜんざいやきな粉もちなどにして全員で食べました。

「たたらフォーラム」が開かれます

日時 3月4日（日）午後1時～午後4時40分

場所 日野町文化センター／ホール森の音楽隊

入場無料

- 内容 ①プロローグ（午後1時15分～）
講師：すぎはらみきおさん【（有）地域未来代表取締役】
- ②講演「奥日野のたたら製鉄と近代化」（午後1時55分～）
講師：野原建一さん（県立広島大学名誉教授）
- ③パネルディスカッション「奥日野のたたらに光をあてる」（午後3時15分～）
パネリスト：影山 猛さん（たたら研究会会員・伯耆国たたら顕彰会顧問）
小谷博徳さん（都合山たたら保存会会長・里山元気塾塾長）
角田徳幸さん（島根県教育庁古代文化センター専門研究員）
野原建一さん
コーディネーター：福元恵美子さん（皆生「松月」若女将）
- ④フィナーレ：日南神楽「神光社」（午後4時20分～）

主催 たたら魅力発信事業実行委員会・鳥取県教育委員会
問合せ 鳥取県日野総合事務所県民局（電話 72-2085）

かつて、奥日野は
日本屈指のたたら製鉄の地だった！

遠い国の話に興味深々

国際交流協会が交流会を開く



ナイジェリアの紹介をするオジェルさん

日野国際交流協会（小谷博徳会長）が、1月19日、町内の小中学校で英語指導助手をしているエゾモ・オジェル・フリックスさんを囲んで「お話を聞く会」を開きました。

オジェルさんはナイジェリア出身で、来日して6年目。現在は日南町に住んでおられます。

会では、オジェルさんが準備した映像を見ながら、国の位置や人口、国旗、民族衣装、言語や暮らしぶりなどナイジェリアについて説明を聞きました。人口は日本とほぼ同じだそうです。

会員らは教育制度や日本に来て驚いたこと、雪を初めてみた印象などを質問し、交流を深めました。

寒さなんかには負けないぞ

寒空の中、空手寒げいこ



水温に負けないよう気合を入れる会員ら

寒さの中で心身を引き締め、今年一年の精進を誓う、日本少林寺流空手道錬成会館鳥取地区本部（音田守本部長）による空手寒げいこが、1月29日、山村開発センターで行われました。

1月下旬の低い気温の中、県内外から多くの会員が集まり、「エイッ、エイッ」とかけ声を合わせ、突きやけりのけいこを行いました。

また、会員らは日野川へ移動し、水温の低さに体を震わせながらも気合を入れて入水。大きな声を出して拳を突いていました。

また、冬の風物詩を撮影しようと多くのカメラマンも駆けつけ、その姿を撮影しました。

募金活動が認められる

日赤日野町奉仕団に感謝状



船越委員長（中）は今後の活躍を誓いました

昨年の11月1日、日本赤十字社から日赤日野町奉仕団（船越伸子委員長）へ感謝状が贈られ、1月16日、船越委員長が景山町長に報告に訪れました。

これは、東日本大震災発生後、日本赤十字社救済活動として、4月に丸合根雨店駐車場やコメリ根雨店駐車場、安泰アパレル株式会社黒坂工場の3カ所で、8月に黒坂納涼まつり会場で、11月に町公民館まつりにおいて行った積極的な募金活動が認められたものです。

船越さんは「今後もボランティア団体として、東日本大震災の早期復興を祈ります」と強い思いを話しました。

伝統行事を守る

菅福地区で奇習行事「ほとほと」



一斉に水をかけられるほとほと役の男性ら

みのやかさ姿の男性らに水をかけて厄を払う奇習行事「ほとほと」が、2月4日、菅福地区で行われました。これは、厄年を迎える人のいる家庭を、ほとほと役の地元男性らが菅福神社のお札やわらの馬、しめなわなどの縁起物を持って訪れ、家の人から祝儀の品を受け取って帰るところに水をかけると厄が落ちるといふもの。

庭先にたくさん雪が残る中、今年は6件の家庭で行われ「ほとほと、ほとほと」と言いつつ訪れたほとほと役の男性らに、家族や近所の住民らが総出で水をかけるなど、にぎやかな厄落としとなりました。